



MAP アプリで子どもが主体的に！

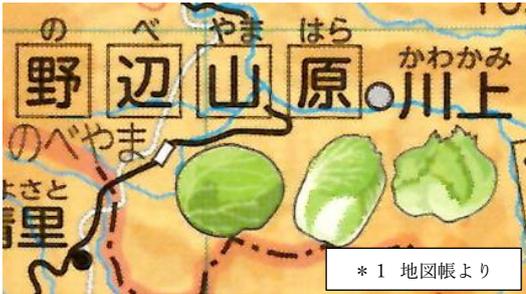
新潟市立万代長嶺小学校 鈴木貴之

児童全員に iPad が配付されました。それによって社会科の授業が大きく変わります。その中でも MAP アプリは子どもの主体的な学びのために非常に有効です。今回はその活用の仕方についてご紹介します。

5 学年 社会科 「3 自然条件と人々の暮らし 高地でくらす人々（長野県南牧村野辺山原）」教科書 P~

【本単元に関わる指導要領】P77

自然環境に適応しながら工夫して生活したり、自然条件を生かしながら産業を営んだりしていることを具体的に学習できるようにすることが考えられる。



今まで使ってきた地図帳

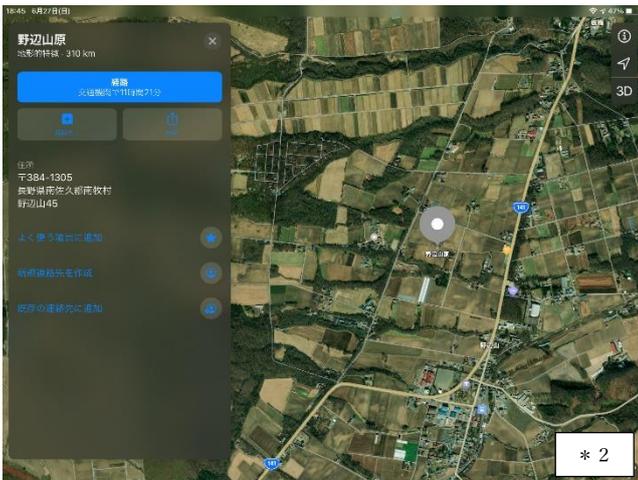
- ⊗ 大まかな地名だけしか分からない。
- ⊗ 特産物が記載されていてその様子までは分からない。
- ⊗ 地形的な様子の概略は分かるものの土地利用までは分からない。

こんなスタートはどうですか？

T「あたたかい地域の暮らしの次は標高の低い地域の新潟とは違う標高の高い野辺山原です。」

(標高がどれだけ高いかを示した後、どんなところだろうと児童に考えさせる。)

T「MAP アプリを使って野辺山原に行ってみよう！」



あ！田んぼが多い。お米をたくさん作っているんじゃないかな。

駅もあるよ。新潟と同じだね。

300 km も離れているけれど新潟と似ている暮らしをしているんじゃないかなあ。

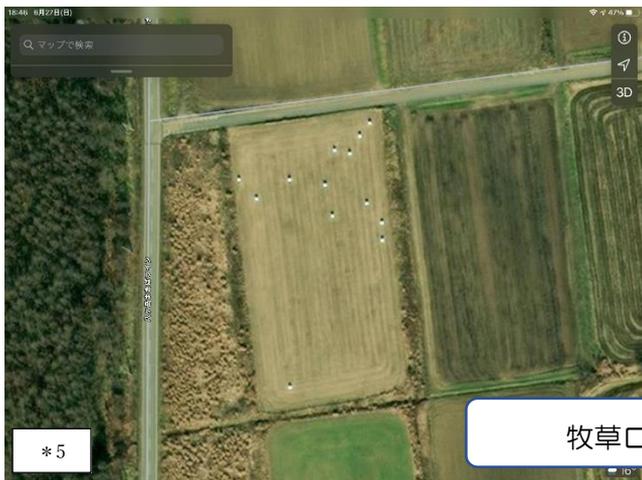
自然がたくさんあっていいところ。

(見つけたものを自由に語らせます。)



ピンチイン（拡大）で細かい所まで見ていくと「サラダ街道」「レタス街道」という名前まで分かります。子どもは「何だろうサラダとかレタスとかって」と疑問を持ち始めます。

次に気付くのは謎の白い点です。農地の上にはばらばらにあって固まっていたりたくさん見つかります。



牧草ロール



何だろうこの白い点々は…？



観測所のアンテナ



レタス畑の白マルチシート

この「白い」ものが高地の暮らしに大きく関係してきます。「白い」ものの正体を明らかにしたくなった子どもは追究意欲をもって調べ学習をしていきます。



牧草ロール → ソフトクリームが必ず写っている写真, 牛のオブジェ → 酪農がさかん
観測所のアンテナ → 星がよく見える → 空気がきれい
白いマルチシート → レタスを育てている, レタス街道との結びつき → レタス作りがさかん

新潟市には無いものにあふれている野辺山原の様子を知り学習課題が生まれます。

学習課題 なぜ高地の野辺山原では牧草や観測所, レタス作りがさかんのだろうか。

今までは地図帳で大まかな地名, 特産物, 地形の様子しか分らなかったものがMAPアプリを使うことでより詳しく調べることができ, 多くの情報を集めることができるようになりました。分かることが増えることで分からないことがはっきりしたり, 追究していく視点をもったりすることができます。そして, それは教師が提示するのではなく, 子ども自身が発見して調べたくなるという追究意欲を生み出します。このようにMAPアプリは子どもが主体的になる非常に有効なツールなのです。

*2~11 は Map アプリ内の画像を引用